

2016年(平成28年)1月5日(火曜日)

# 増毛山道の完全復元へ

## 28年度に作業着手

石狩市が協力を 2年程度で完了見込み



昨年9月、増毛町側の復元完了後に行われた増毛山道のトレッキング

NPO法人増毛山道の会(伊達東会長)は、28年度から増毛山道の石狩市側の復元に着手する。同法人の小杉忠利事務局長は「昨年からは打ち合わせを重ねている石狩市が復元に対して協力的で、順調に行けば2年程度で完了する見込みだ」と話している。(原田孝)

増毛山道は江戸時代末期の安政4年(1857年)、マシケ場所の請負人だった伊達林右衛門が私費を投じて交易路などとして増毛町別荘と石狩市浜益区幌を結ぶ山中に開削された、全長32キロの山道。近年は笹に埋もれて利用されていなくなったが、22年度に留萌振興局と同法人が増毛町別荘と岩尾間の約16キロを復元。23年度から体験トレッキングを行っている。

から同市と打ち合わせを重ねている。また、復元ルートは民有林に加え国有林が含まれていることから、昨年10、11月には所管する石狩森林管理署に許可を得て実際にルートを歩く踏査を行った。同市は復元に協力的で活動の中核となる組織づくりの準備も進んでいる。

小杉事務局長は「トレッキング参加者のうち4割は札幌市および近郊の住民であり、増毛山道に対する関心は高い。石狩市側での活動の中核となる組織を作り、できるだけ早く復元を完了させたい」と意気込む。増毛山道の完全復元により、歴史的価値は一層高まりそうだ。

その後も復元作業を継続し、昨年8月に増毛町側の残っていた0・4キロの区間を復元。これにより増毛町側の21キロは終了し、昨年9月には増毛町側の全コースを歩く体験トレッキングを実施、同法人のガイドを含め23人が自然と歴史を感じながら山道の散策を楽しんだ。

残るのは石狩市側の11キロ。石狩市側の復元に向けて、同法人では昨年3月